

シンポジウム1 「次世代中医学を目指して：我々は何をすべきなのか？」

香港浸会大学中医薬学院

戴 昭宇

10年前と比べれば、世相が大分変わりました。とりわけコロナの流行っている渦中で現在でも悪戦苦闘している世界各国の人々にとっては、医療保健のニーズならびにライフスタイルなどに対する意識も大きく変化しています。

中国国内では、2003年のSARSと一年ほど前に武漢から爆発し始まったコロナ感染症との闘いを経て、正規医療の一部として頑張ってきた中医学分野は、その臨床、教育と研究に対する国内外の様々な論争を通じて、改めて脚光を浴びています。これから、コロナ感染症の救急救命は勿論なことですが、中国社会の未来を図る「大健康戦略」というプランの中でも、中医学の発展と活用も国策として重要視されていますし、中医学を生かした国際貢献を捧げようとの中国側の積極的な姿勢も意欲的です。

中医学の発展を挙国の態勢で推進している中国と比べれば、いまでも基本は民間の力で頑張っている日本において、中医学の発展については、これから学会団体の働きがなおさら重要なことだと思われまます。

次世代の中医学を目指して、我々はすべきことは沢山ありますが、とりわけ日本中医学会の使命と役割として、下記の課題を優先的に考える必要があるのではないかと思います。

まず、中医学の理論とそれを生かした生薬・鍼灸・薬膳または氣功などの活用による心身の医療と保健における有効性・有用性の価値を痛感した我々は、改めて日本で広く同志を呼びかけ、特に若手を取り入れて勢力を再結集すべきです。

そして、統合医療全域の交流と連携とも合わせて、これから専門別の研究・教育と交流のグループを幾つか結成し、絶えずに内外の交流活動を行い、中医学の有用性と魅力、またその存在感をアピールして行く必要があると思います。

また、内外の学会団体との連携と合作を図り、日本の医療界と民衆むけの教育啓蒙活動ならびに情報提供、海外向けの日本中医学と統合医療のアピール、更に共通課題の学会間連携プロジェクトチームの結成や国際的共同研究の課題の推進などを考案すべきだと思います。